

第4回乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン会議レジュメ

日時 | 2016 年 12 月 6 日 (火) 13:30-15:30

場所 | 岡崎市役所分館 3 階大会議室

資料 | ①デザイン会議の位置づけ ②QURUWA アクションプランシート

③Quruwa Future Vision day3 チラシ

④まちのトレジャーハンティング@岡崎プレシンポジウムチラシ

目的 | ①主要回遊動線 QURUWA アクションプランの検討

② (仮) セントラルアベニュー (CA) の設計方針の検討

1. はじめに【5 分】

- ・ 主催者あいさつ
- ・ デザイン会議の位置づけと進め方について [資料 1 : デザイン会議の位置づけ]

2. 関連事業の進捗報告【10 分】

- (1) 第 3 回デザイン会議 (10/25) 以降の関連事業の進捗
- (2) 第 3 回官民連携調整会議 (11/15) の報告

3. QURUWA アクションプランの策定に向けて【40 分】

[資料 2 : QURUWA アクションプランシート]

- (1) 策定プロセスイメージについて
- (2) 各エリアの「将来像」と「グランドスケジュール (5 か年)」と「推進体制」に関する意見交換

4. (仮称) CA の設計方針について【55 分】

- (1) これまでの経緯：事務局【5 分】
 - ・ Quruwa Future Vision (day1/2) の振り返り
- (2) 設計方針案の説明：オンサイト計画設計事務所【20 分】
 - ・ 以前の設計案から変わった点を中心に説明
- (3) 既存ステージ利用者へのヒアリング結果の共有
- (4) 意見交換：Quruwa Future Vision day3 (12/10) に向けて設計方針の内容を確認【30 分】

□チェック項目

- ・ 全体
 - QURUWA 上の位置づけ
 - 交通政策上の位置づけ
 - 予算の考え方 (優先順位や民間投資の誘発)
 - 地形の読み解き
 - CA 各ゾーンの機能とつながり
 - プロモーションのターゲットと方法 (来街者、事業者)

- ・ QFV2・推進会議より
 - 具体的な活用イメージとの整合性
 - B1 ブロック（中央緑道北端）の位置づけと機能
 - ◇ 歴史まちづくりとの調整
 - ◇ 商店街とのつながり
 - ステージ移設の是非（既存の利用団体へのヒアリング実施）
 - バリアフリー対応
 - 2つのトイレの必要性
 - 電気・水道のインフラ設備

5. おわりに【10 分】

- ・ まとめ
- ・ 次回デザイン会議（1 月～2 月で調整中）
- ・ 今後の関連事業の取り組み紹介 [資料 3、4：イベントチラシ]

以上。

乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン会議の位置づけ

1. デザイン会議について

- ・ デザイン会議は、H27 年度に策定された「おとがわりリバーフロント（RF）地区まちづくりデザイン基本構想」において、持続可能な都市経営を図るための戦略構築を担う専門家および関連部署の会議体としてその必要性が示され、H28 年度に設置されました。
- ・ 本会議は、メンバーの議論を聞いていただけるように公開としていますが、基本的には要望や意見を伺う場としては設定しておりません。
- ・ ただし、設置要綱（4 条 4）に則り、メンバーの過半数が必要であると認めるときに限り、広く意見を聴くことがあります。
- ・ 市民が主体的に活動していただける場合は、計画の進捗に応じて設けていきます。

> 前回デザイン会議でご指摘いただいた内容

- ・ 誰が話しているかわからない
→ 席次を配布し、挙手をしてから発言する。
- ・ 声が聞こえにくい。
→ マイクを使用する。

2. 乙川リバーフロント地区デザイン会議設置要綱【抜粋】

（設置）

第 1 条 公民連携まちづくりによる持続可能な都市経営の実現に向け、乙川リバーフロント地区整備計画区域（以下「計画区域」という。）の公共空間（公園、河川、施設、道路、サインなど）及び民間空間における都市デザインの調整を図り、都市デザインの優れた魅力的なまちづくりを推進するため、乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン会議（以下「会議」という。）を実施する。

（所掌事項）

第 2 条 会議の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 公民連携まちづくりの仕組みづくりに関する事項
- (2) 計画区域の公共空間及び民間空間における都市デザインの調整に関する事項
- (3) デザインガイドラインの監修及び運用方針の検討に関する事項
- (4) その他都市デザインの推進に当たり必要な事項
- (5) 乙川リバーフロント推進会議との連携に関する事項
- (6) 乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン官民連携調整会議との連携に関する事項

（組織）

第 3 条 会議は、メンバー 12 人以内をもって組織する。

2 会議のメンバーは、次の各号に掲げる者で構成する。

- (1) 岡崎市市政アドバイザー
- (2) 民間事業者
- (3) 岡崎市職員

(4) ランドスケープ専門家

(会議)

第4条 会議は、必要に応じて事務局が随時招集する。

2 事務局は、メンバーの過半数が必要と認めるときは、会議に関係者の出席を求め、意見を聴くことができる。

3 事務局は、メンバーの過半数が必要と認めるときは、会議を非公開とすることができる。

4 事務局は、メンバーの過半数が市民から広く意見を聴く必要があると認めるときは、会議への出席を希望する市民をあらかじめ募集し、意見を聴くことができる。

3. 委員

(1) 岡崎市市政アドバイザー

清水義次 [都市再生プロデューサー]：リノベーションまちづくりプロデューサー

泉 英明 [都市計画プランナー]：かわまちづくりプロデューサー

藤村龍至 [建築家]：おとがわプロジェクトデザインコーディネーター

(2) 民間事業者

山田高広 [まちづくりプランナー]：地元家守会社

(3) 岡崎市職員

岡田晃典：企画財政部

畔柳久司：経済振興部

雑賀章友：経済振興部

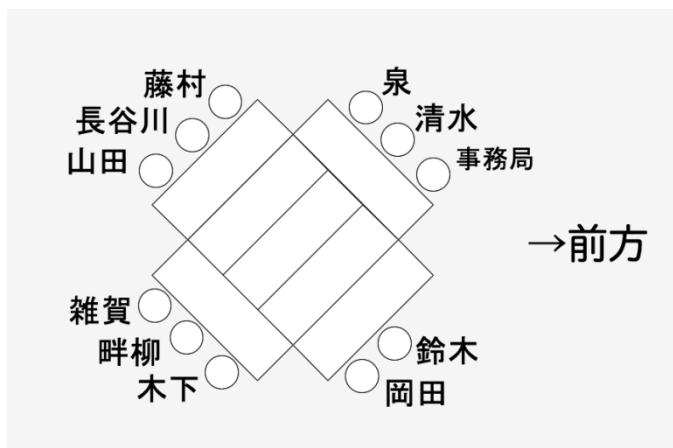
木下政樹：都市整備部

鈴木亨一郎：都市整備部

(4) ランドスケープ専門家

長谷川浩己 [ランドスケープデザイナー]：セントラルアベニュー設計者

4. 席次



以上。

乙川リバーフロント計画

RF 計画（基本構想「基本理念」＝持続可能な都市経営）＝公共資産の利活用を通じて、民間投資の誘発を目指す公民連携まちづくりのモデルケース
 基本構想の方針＝①回遊性の向上と滞留時間の拡大、②新しい公共サービスの担い手の創出、③良質な都市空間の形成→主要回遊動線（くるわ）上で重点的に①～③の実現を目指す＝くるわ(QURUWA)戦略
 構想実現のための推進体制＝▽署横断型の推進体制を築くための3つの会議体「デザイン会議」「推進会議」「官民連携調整会議」
 →QURUWA 戦略の実現＝「岡崎の公民連携のモデルとなる空間と仕組みの創出」「民間投資による集客コンテンツの充実・集積」＝観光産業都市の創造

QURUWA 戦略 ＝ 歩いて楽しく、自転車で回れて、車で来やすいまち

背景 これまでの公共投資（岡崎公園、リぶら、歴史資産、商店など）→点
 リバーフロント計画によるエリア設定 →面
 主要回遊動線設定と動線上の公民連携プロジェクト →線
 『点から面、面に対する線の設定により、個性と魅力あるエリアをつなぎ、地区全体の価値を高める公民連携事業を展開する。』

- 作戦
- 1) 岡崎の暮らしが面白いと思わせる特徴的な新しいライフスタイルの集積エリアをつくる
 - 2) 公民連携によるエリアマネジメント組織と集客・収益事業モデルを構築する
 - 3) 各エリアの公共空間と民間不動産を活かした事業を展開する
 - 4) 質の高い民間投資を呼び込むためのモデルとインセンティブづくりならびにそのアナウンスを行う
 - 5) 公民双方のクオリティコントロール（デザインガイドライン、ストリートデザインマニュアル）を導入する
 - 6) 交通体系（自動車、バス、自転車、歩行者、駐車場など）の見直しを行う



	1 駅前エリア (繁華街)		2 CAエリア (シンボルロード)		3 旧東海道エリア (3-1 空き家・商店街・3-2 リぶら周辺)		4 伊賀川 エリア (伊賀川、歴史)	5 乙川 エリア (まちなかの自然)	エリア 共通	
	1-1 北東街区	1-2 駅西	2-1 国1より南	2-2 国1より北	3-1 バス通りより東	3-2 バス通りより西				
エリアビジョン (回遊空間化)	※デザイン会議で策定		『機能』：周辺エリアに新たな人材と産業を輩出する装置 ：QURUWAを互遊させる骨格であり、訪れるための目的地となる 『整備方針』：歩車・自転車・活動者共存の一体空間化 『性格』：時代と共に成長していく場所 ：多世代が関わる場所 ：若者のチャレンジを誘発する場所 ：これからの暮らし方を体験できるアウトドアリビング		・3つの個性的な ストリートづくり ・歩行空間拡大と軒先テラス活用 ・魅力的な暮らしと商いの発信		・オープンスペースの利活用と パークマネジメント ・リぶらと周辺の繋がり	・伊賀川の活用 ・エリア一体のマネジメント 体制	・水辺・スポーツアクティビ ティや飲食など、河川活用 の拠点の整備 ・日常的な水辺活用のプロデュ ースとマネジメントを担 う組織の育成 ・地先/関連事業者との連携	・トラフィックセルの導入 ・歩行者に心地よい空間や 居場所を提供し、滞留時 間を延ばす（プレイスメ イキング） ・エリアの価値を高めるデ ザインガイドライン
民間 (マネジメント組織)	北東街区事業者 まちづくり岡崎		かわしん跡地事業者 籠田地下P管理者		家守会社 事業者 発展会		岡崎公園指定管理者	スポーツアクティビティ 事業者		
公共 (推進チーム)	◎ 拠点整備課 (まちづくり部) RF 推進課 (まちづくり部) 公園緑地課 (まちづくり部) 交通政策室 (まちづくり部)		◎ 商工労政課 (まちづくり部) 拠点整備課 (まちづくり部) 交通政策室 (まちづくり部) 道路維持課 (まちづくり部)		◎ RF 推進課 (まちづくり部) 道路維持課 (まちづくり部) 交通政策室 (まちづくり部) 都市計画課 (まちづくり部)		◎ RF 推進課 (まちづくり部) 公園緑地課 (まちづくり部) 道路維持課 (まちづくり部) 都市計画課 (まちづくり部)	◎ RF 推進課 (まちづくり部) 公園緑地課 (まちづくり部) 道路維持課 (まちづくり部) 都市計画課 (まちづくり部)	◎ RF 推進課 (まちづくり部) 公園緑地課 (まちづくり部) 道路維持課 (まちづくり部) 都市計画課 (まちづくり部) 交通政策室 (まちづくり部) 企画課 (まちづくり部)	

グランドスケジュール	[設計]		[使い方]		[管理]				
	2021 (H33)			事業開始					
	2020 (H32)			工事	プロモーション				
	2019 (H31)			工事	ファンドレイジング	マネジメント体制構築 (公民連携)			
	2018 (H30)	第2期駅前整備工事開始(予定) 第1期駅前整備工事完了	工事	法人化	条例改正				
	2017 (H29)	・第2期駅前整備工事の準備 ：整備内容検討(拠点整備課) ：地元調整(まち岡)	詳細 (空間デザイン) (交通デザイン)	社会実験 担い手育成 チームビルディング	事業スキーム検討 作成プログラム		・一時占用の社会実験	・地先利用 ・岡崎公園・太陽の城跡地 との連携検討 ・マネジメントチームづくり	
2016 (H28)	・作戦づくり ：事業推進組織の検討 ：乙川/入道橋への動線検討 ：農路地の活用検討 ：北東街区事業者との連携検討	基本 (空間デザイン) (交通デザイン)	コンテンツづくり 担い手発掘	マネジメントイメージ	・リノベスクール ・ストリート活用社会実験 ・景観デザイン、 ストリートデザインの検討 ・遊休公共不動産の公共側の 推進チーム検討	・作戦づくり ：オープンスペース活用検討 ：貸し出し条件の確認・検討	・作戦づくり ：一体利用、一体管理の検討	・河川活用社会実験 ・担い手発掘 ・道路・歩道利用 としての検討	